

『GO Journal』1号の一部誤植と表現に関する訂正とお詫び

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2017年11月22日に創刊発行いたしました、『GO Journal』1号に、一部漢字の誤植とパラリンピックの意味に関する説明について、誤解を与えうる表現が含まれておりました。以下のとおり訂正をさせていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

■該当箇所 『GO Journal』1号 p.63

(訂正前)

「パラリンピック」という言葉が世界的にも初めて公式資料の中で使用されたのは、1964年の東京大会の際だった。半身付随を意味する“Paraplegia”と“Olympics”を組み合わせた造語は、当時、正式名称としてではなく“愛称”として名付けられたものだった。この呼び名が正式名称となるのは、1988年のソウル大会から。のちに、東京大会は第2回パラリンピック（第1回は前年に開催されたローマ大会）と位置付けられ、今日に至る。ちなみに、2020年の東京大会で、東京は歴史上初めて2度目の夏季大会が開催される都市となる。

(訂正後)

「パラリンピック」という名称は、「オリンピック開催年にオリンピック開催国で行われる国際ストック・マンデビル大会」＝「Paraplegia (対麻痺者)」の「Olympic」＝「Paralympic」という発想から、東京大会の際に日本で名付けられた愛称であった。その後、1985年、IOCは国際調整委員会（ICC）がオリンピック年に開催する国際身体障がい者スポーツ大会を「Paralympics (パラリンピックス)」と名乗ることに同意した。しかし、従来のパラリンピックという言葉は、対麻痺者のオリンピックという意味であったことから、身体障がい者の国際大会になじまなかったため、パラ＝Parallel (沿う、並行) +Olympics (オリンピックス) と解釈することになった。のちに、東京大会は第2回パラリンピック（第1回は1960年に開催されたローマ大会）と位置付けられ、今日に至る。ちなみに、2020年の東京大会で、東京は歴史上初めて2度目の夏季大会が開催される都市となる。